

平成 27 年 5 月 26 日
茨城県水産試験場内水面支場
(担当 : 内水面資源部)

平成 27 年 アユの遡上状況について (解禁前情報)

6 月 1 日に多くの県内河川でアユ釣りが解禁となります。茨城県水産試験場内水面支場では、県内河川のうち久慈川堅磐堰 (河口から約 8 km) および那珂川千代橋 (河口から約 30 km) を調査定点とし、2 月下旬よりアユの遡上調査を実施しておりますので、この結果をまとめ解禁前情報としてお知らせします。

1. 河川水温の推移

久慈川堅磐堰および那珂川千代橋での河川水温は、概ね平年並みに推移しました。しかし、沿岸の海水温が 2 月下旬以降平年よりも低くなり、遡上が盛期となる時期に影響を与えた可能性が考えられます。

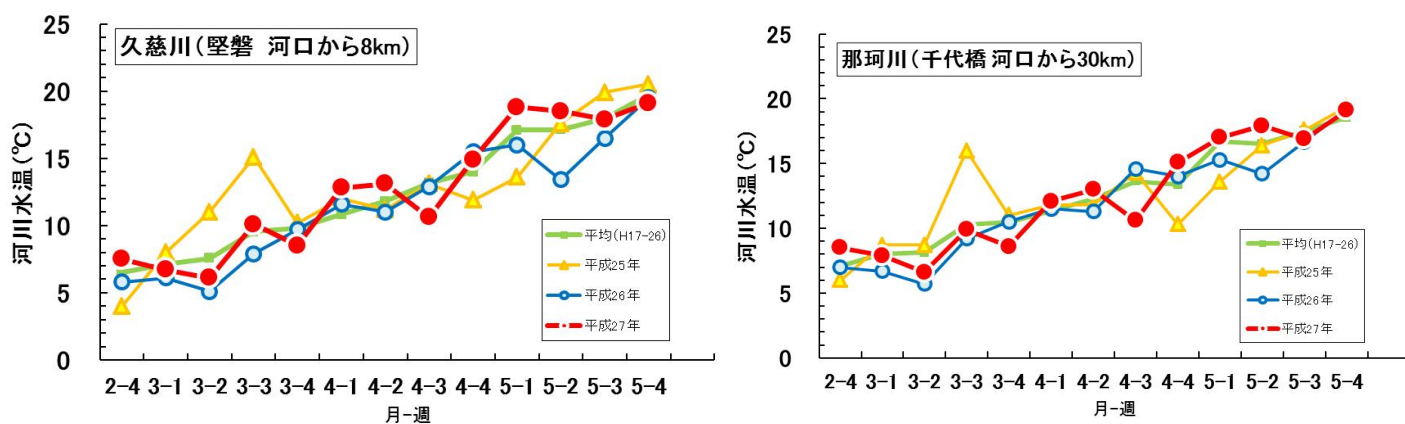


図 1 調査定点における河川水温の推移
(左図 : 久慈川堅磐堰 , 右図 : 那珂川千代橋)

2. アユの遡上状況

(1) 遡上初確認日について

調査定点での遡上初確認日は、久慈川では平成17年以降最も早く、那珂川では平年並となりました。

表1 茨城県水産試験場内水面支場の調査による遡上初確認日

年	久慈川(堅磐堰)		那珂川(千代橋)	
	月日	平均全長(mm)	月日	平均全長(mm)
平成27年	2月25日	70.24	3月31日	77.36
平成26年	3月25日	89.4	4月2日	87.01
平成25年	3月15日	84.8	3月25日	82.7
平成24年	3月9日	80.0	4月17日	74.2
平成23年	3月30日	78.7	4月7日	78.2
平成22年	3月9日	104.1	4月8日	117.9
平成21年	4月6日	111.8	4月6日	91.0
平成20年	2月27日	83.7	3月19日	88.8
平成19年	3月6日	94.7	3月27日	85.8
平成18年	3月7日	95.1	3月29日	90.4
平成17年	3月2日	93.9	4月6日	98.0

平成23年は東日本大震災の影響から連続調査ができなかったため“参考値”とした。



久慈川で採集された遡上アユ(2月25日)



那珂川で採集された遡上アユ(3月31日)

【参考図】 調査定点で採集された遡上アユ

(2) 遡上アユの採集尾数の推移 (投網10投あたりに換算した採集尾数の推移)

久慈川： 遡上状況は平年を上回っていると考えられます。前年秋季の台風の影響で、好適な産卵環境が産卵期の適切なタイミングで各地に造られた他、漁協の自主禁漁により親魚を多く確保できたこと等が要因と考えられます。また、前年秋季の流下仔魚量は過去最高水準となっていたと推測されます。

なお、2月下旬以降、沿岸の海水温が低下したことを受け、遡上の盛期はやや遅れたと考えられました。

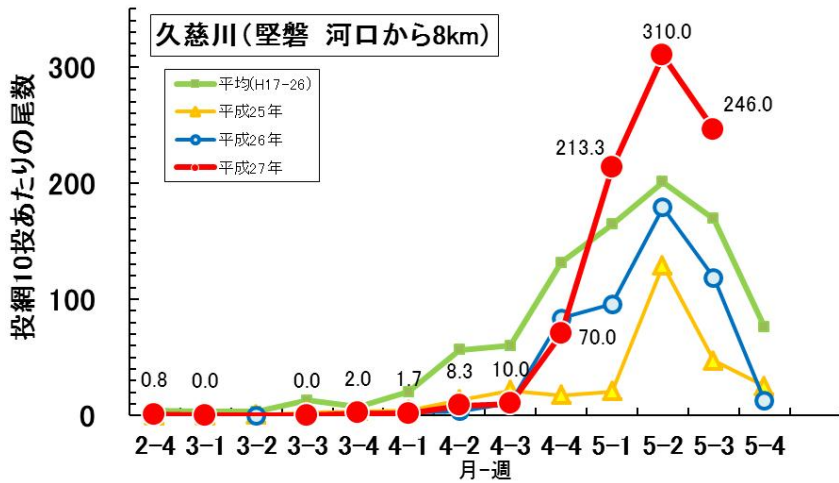


図2 久慈川堅磐堰でのアユ遡上状況

5-4は出水のため、未調査

那珂川： 前年のように極端な大遡上とはなりませんが、平年並からやや上回る遡上状況と考えられます。

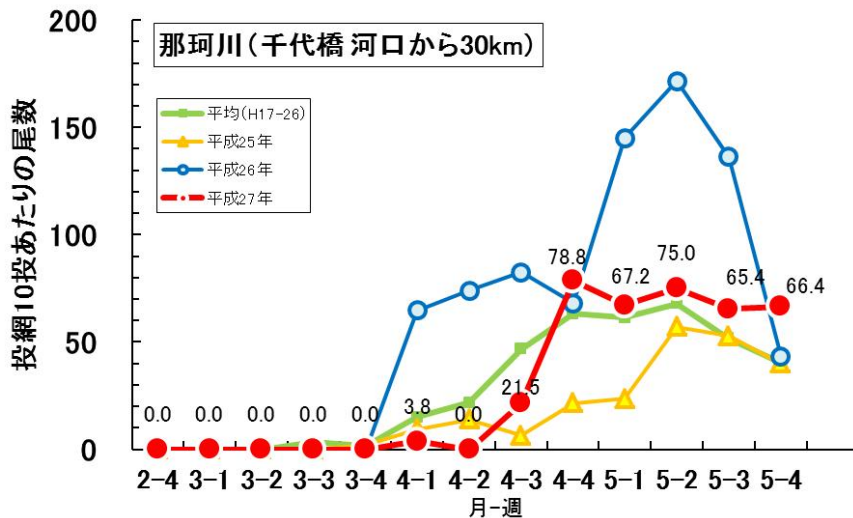


図3 那珂川千代橋でのアユ遡上状況

3. 漁協の聞き取り結果

久慈川： 平年と比べ、遡上量は多い印象である。釣果については、遡上調査時に天然の大型の個体もみられたので、放流ものと併せて期待したい。解禁日は月曜日になり、前年の日曜日よりは来客は減ると思う。天候、河川水温、河川水量次第となるが、ここ数年は資源保護の取り組み（秋季の自主禁漁やアユの産卵場造成）や放流手法の改善等の結果、解禁日に50尾以上釣る方もみられる。シーズン中、多くの釣り客と好釣果を期待したい。

那珂川： アユの遡上は前年の大遡上に比べれば少ないものの、平年より多いと感じている。今年も群れながら遡上したとの情報も入った。平成26年秋季には、水産試験場の指導や国交省常陸河川国道事務所、常陸大宮市等の協力により初めて『アユの産卵場造成』に取り組み、7億粒を超えるアユ卵を確認できた。シーズンの釣れ具合は天候にも左右されるだろうが、産卵場造成のような取り組みの効果が出て、好釣果となればと思う。

4. まとめ

当支場による調査結果から、平成27年の久慈川および那珂川のアユの遡上は、平年と比較し、久慈川では高い水準、那珂川では平年並み～やや高い水準と考えられます。特に5月上旬は両河川とも濁水状態でしたが、アユの遡上は順調でした。主要な釣り漁場等でも遡上アユやハミ跡が多くみられたとの情報もあることから、今後の成長が期待されるところです。

